

第 34 回 日本生命倫理学会 年次学会

〈大会テーマ〉 ひとに聴き、ひとを見つめる生命倫理

◆開催方法:対面開催及びライブ配信

◆会期

対面開催及びライブ配信:2022年11月19日(土)・11月20日(日)

オンデマンド配信:2022年11月19日(土)～12月4日(日)

〈大会概要〉

2022年10月27日 ver. 2.90

作成:第34回年次大会事務局

日本生命倫理学会

大会長挨拶

大会長 土井健司（関西学院大学）

新型コロナウイルス感染症による災禍が生じて、もう二年半になります。コロナ禍のため20年度の静岡大学、21年度の慶應義塾大学、いずれの年次大会もオンライン実施を余儀なくされました。私どもが年次大会の実行をお引き受けしたときには、大会実施はコロナ終息後となり、学会員同士の対面での交流が実現できるよう祈念しました。その願いは部分的にしか叶いませんでしたが、何とか一つの会場だけはハイブリッドとして対面実施の場を確保し、皆様にお越しいただけるようにいたしました。また二会場ではZoomを使ったシンポジウムをプログラムし、また一般演題はオンデマンドで一定期間視聴していただけるように準備しております。これらについては来学の上でのオンライン参加の場所も用意しております。

生命倫理の問題にこれまで私なりに取り組んで参りましたが、人との交わりがその根本にあると考えております。歴史を振り返るなら人体実験、中絶、脳死・臓器移植、安楽死などは古典的ともいべき問題群ですが、それぞれ問題の根にはひと・人というものの忘却があると考えています。被験者となる人、臓器摘出されるドナーとなる人、安楽死を願わなければならなくなった人、複雑化する社会、高度に発展する医療の場におけるひと・人の忘却が生命倫理の根本にあって、こうした忘却をどのように克服、あるいは緩和しバランスをとるのが考えられ、生命倫理の歴史が刻まれてきたのではないのでしょうか。本大会のテーマとして「ひとに聴き、ひとを見つめる生命倫理」を掲げたのは、このような考えに基づきます。またこの忘却を克服すべく、どれだけ優秀な手段、方法、マニュアル、ガイドラインを作成したとしても、常に現場において具体的なひとに向かい、その言葉に耳を傾け、また注意深く見る必要がある。日ごろからこのように考えていなければ、また忘却が生じてしまうように思います。

大会実施にあたり本学の藤井美和副大会長とは大会テーマや企画シンポジウムについてよく相談させていただき、また実務面では加納和寛事務局長がしっかり支えてくださっています。また学会事務局、情報化委員長、実行委員の先生方も惜しめない協力をくださってミーティングを重ねることができ、ここにいたっています。心からの感謝しかありません。

大会当日には、皆さまが大勢、参加してくださり、年に一度の交流の場をかけがえのないものとしてくださることを願っています。コロナ禍も終息しきらず、関西学院大学（上ヶ原キャンパス）は主要駅からは離れておりますが、できるだけ足を運んでいただければと願います。もちろんオンラインのみの登録もできます。皆様の参加をお待ちしております。

第 34 回年次大会実行委員会

大会長	土井健司（関西学院大学）
副大会長	藤井美和（関西学院大学）
大会事務局長	加納和寛（関西学院大学）
実行委員	香川知晶（山梨大学）
	安藤泰至（鳥取大学）
	建石真公子（法政大学）
	美馬達哉（学会企画委員長、立命館大学）
	河原直人（学会情報委員長、九州大学）
	田中智彦（学会事務局長、東洋英和女学院大学）

参加者へのご案内

第34回日本生命倫理学会年次大会は、オンライン会議システム（ZOOM）および学会ウェブサイトを利用して開催いたします。年次大会に関する最新情報は、学会ウェブサイトにて随時ご案内しておりますので、あわせてご参照ください。

1.開催期間

- ・対面開催及びライブ配信:2022年11月19日（土）・20日（日）
- ・学会ウェブサイト上でのオンデマンド配信：11月19日（土）～12月4日（日）

対面開催 (ライブ配信とのハイブリッド)	ライブ配信 オンデマンド配信11月22日（火）以降
学会企画シンポジウム 国際シンポジウム 大会企画シンポジウム 若手優秀賞候補者セッション 若手論文奨励賞受賞者を囲んで	学会企画シンポジウム 国際シンポジウム 大会企画シンポジウム 若手優秀賞候補者セッション 若手論文奨励賞受賞者を囲んで 公募シンポジウム 公募ワークショップ

対面会場：[関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス](#)（兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155）

会場へのアクセス→[こちらからご確認下さい](#)

最寄駅：阪急電鉄今津線 甲東園駅（バス5分、徒歩12分）、仁川駅（徒歩12分）

※両駅ともタクシー乗り場がありますが、台数に限りがありますのでご注意ください

2.参加申込

年次大会へ参加するには、事前登録が必要になります。会員と非会員では、事前登録の方法が異なりますので、ご注意ください。

※一部のプログラムは一般無料公開されます（対面のみ。オンラインライブ配信・後日オンデマンド録画で視聴する場合は参加登録が必要です）。

◆参加登録期間

2022年10月7日（金）～12月2日（金）

※対面参加登録期間：2022年10月7日（金）～10月28日（金）

オンライン参加登録期間：2022年10月7日（金）～12月2日（金）

◆参加登録方法

【日本生命倫理学会会員の方の参加登録方法】

1. [日本生命倫理学会会員専用サイト](#)にアクセスしてください。
2. ログインID（会員番号）とパスワードを入力し、ログインしてください。
3. パスワードをお忘れの場合は「パスワードを忘れた方はこちら」をクリックしてください。
4. ログインID（会員番号）を忘れた方は事務局（admin@ja-bioethics.jp）へお問い合わせください。
5. 「イベント情報」⇒「イベント申込」に進んでください。
6. イベント名「第34回 年次大会（兵庫）－オンライン開催」の欄の「受付中」より、お申し込みを開始してください。
7. お申し込み終了後、ご登録のメールアドレスに大会参加者専用サイトのパスワードをお送りします。

※ 不具合等のお問い合わせは以下までお願い申し上げます

しゅくみねっとサポート

情報委員会（information@ja.bioethics.jp）

【非会員・一般の方の参加登録方法】

1. Peatix 経由で登録をしていただきます。
2. <https://ja-bioethics-conference-34.peatix.com> にアクセスし、ナビゲーションに沿って登録を開始してください。

※一般無料公開プログラムのみに対面参加される場合は、事前申込・登録は不要です。タイムテーブルをご確認の上、当日に直接会場へお越し下さい。（オンラインで視聴をご希望の場合は参加登録・参加費の支払いが必要です）

3. 参加費

■ 正会員: 5,000 円

■ 学生会員・会友: 2,000 円

■ 非会員: 6,000 円

- ・ 参加登録後のお申込み取消しは、お受けいたしかねます。お支払いいただいた参加登録費はいかなる理由があっても返金いたしません。
- ・ 2022年度の会費を未納入の日本生命倫理学会会員の皆様は、非会員の価格が適用されます。大会参加登録に先立って、2022年度分の会費をご納入ください。
- ・ 対面参加（会場：関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス）、ライブ配信参加とも同じ上記の参加費となります。参加費支払いサイトの案内に従って参加形態をご登録ください。

- ・ 参加登録後、参加形態を変更される場合は事務局への連絡は不要です。大会当日にご都合のよい参加形態にてご参加ください。
- ・ 参加費領収証は参加登録サービスのサイト（しゅくみねっと、Peatix）よりダウンロードが可能です。
- ・ 参加証明証（オンライン参加用）は大会当日に参加者限定サイトよりダウンロードできます。参加者名が記入された参加証明証が必要な場合は、年次大会事務局（jab-conference@ja-bioethics.jp）までお申し出下さい。対面参加される場合は当日受付にて発行いたします。

4. 対面参加の注意点

- ・ 対面参加をご希望の場合は、昼食（弁当）の事前申し込みを選択することができます（飲み物つき、1食1,500円）。弁当代は参加費と同時に支払いいただきます。予約販売・前払いのみとなりますので、当日の現金購入はできません。なお、お申し込み後の取り消し・返金にはいかなる場合にも応じかねますのでご了承ください。当日対面不参加により弁当引き取りがなかった場合も返金はできかねます。
- ・ 会場キャンパス周辺にはコンビニエンスストアが数店舗あるほか、キャンパス内の関西学院大学生協食堂の一部店舗および関西学院会館レストランは大会開催中両日ともランチタイム営業を行っていますが、時間帯によっては非常に混雑する場合があります。
 - ・ 関西学院大学キャンパス内の食堂・購買→[こちらからご確認下さい](#)
 ※営業時間・定休日は店舗ごとに異なり、土曜営業・日曜休業の店舗もありますのでご注意ください。
 - ・ 関西学院会館レストラン ポプラ→[こちらからご確認下さい](#)
- ・ 評議員会・理事会とも、会議席上における出席者（評議員・理事）の方々への食事提供は感染防止の観点から見送らせていただきますので、各自でお摂りいただきますようお願いいたします。
- ・ 託児を希望される場合は、参加申込時にその旨を選択して下さい。選択方法は、しゅくみねっと（会員）、Peatix（非会員）によって異なりますので、それぞれの申込サイトでご確認下さい（託児申込期間：10月7日から10月28日まで）。事前申込をせずに託児を利用することはできません。また申込期間内に託児希望者がゼロだった場合は託児サービスそのものを実施しませんのでご注意ください。
- ・ 対面会場（関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス）近辺に宿泊施設はありません。大会事務局は宿泊施設の斡旋をしておりませんので、宿泊をご希望される場合は各自で確保していただきますようお願いいたします。
- ・ 対面で行われるイベント（大会長講演、学会および大会企画、国際交流シンポジウム、若手奨励賞関連セッション等）はライブ配信とのハイブリッドです。
- ・ 対面イベント会場とは別に、会場キャンパス内に、ライブ配信のみのイベント（公募セッション等）にオンライン参加できるエリア（教室）を設けます。[eduroam（エデュローム）](#)参加機関（大学等）所属の方は、ご自身が所属機関から付与されているID・パスワードを用いて無線LANに接続することができます（詳細は所属機関にお問い合わせ下さい）。それ以外の参加者には無料で無線LANに接続できるサービスを提供する予定です。

- ・ オンライン参加用の端末（PC 等）・イヤホン等をご自身でご用意の上、会場にご持参ください。

5. ライブ配信（ZOOM ミーティング・ウェビナー）参加の注意点

- ・ 視聴するには、Zoom アプリ（PC 版）をインストールする必要があります。すでにインストール済みの方は、Zoom アプリ（PC 版）を最新の状態にアップデートしてください。
- ・ 各ウェビナーへの参加時に名前とメールアドレスを入力する必要があります。
安定な通信のため、有線 LAN での接続を推奨します。
- ・ スマートフォンでの視聴は推奨しておりません。
- ・ ミーティングおよびウェビナーの内容を何らかの方法で録画・録音しないでください。

6. オンデマンド配信に関する注意点

- ・ 複数の動画を同時に視聴することはできません。
- ・ 動画コンテンツを端末にダウンロードしないでください。
- ・ 抄録、提題資料など大会参加者専用サイトに掲載されている大会コンテンツを他人に提供しないでください。

タイムテーブル

1 日目 (11月19日・土曜日)

	A 会場	Zoom 1	Zoom 2	会議
	ハイブリッド (関西学院大学)	オンライン (ライブ配信)	オンライン (ライブ配信)	
9:20-10:20	開会式・大会長講演			
10:20-10:30	休憩			
10:30-12:00	学会企画 シンポジウム 個人情報とひとの顔のはざままで データ・尊厳・公共性	公募シンポジウム(2) 生命倫理学における「説明」とは何か——意思決定能力、ナッジ、人工知能の議論による再考	公募ワークショップ(4) 医療資源配分と高齢者差別 - 年齢による区別はどの程度許容されるか？	
12:00-13:00	昼食	昼食		評議員会 (B 号館)
13:00-14:30	公募シンポジウム(1) ウクライナにおける臨床試験：戦時下の研究倫理をめぐる国際的議論	公募シンポジウム(3) パンデミック ELSI の諸相——日本と外国の政策比較を通じた検討	公募ワークショップ(5) 病院組織における倫理の問題—臨床倫理活動調査を通して—	
14:30-14:40	休憩	休憩		
14:40-15:40	大会企画講演 「いのち」へのまなざし —当事者の声に聴く—	公募シンポジウム(4) (~16:10) 出生前検査がもたらす課題とその対応 - NIPT 以降	公募ワークショップ(6) (~16:10) コロナ禍の介護現場で生じた倫理的課題を振り返る—「介護の倫理」の担う役割と今後の課題—	
15:40-15:50	休憩	休憩 (16:10-16:20)		
15:50-17:50	大会企画 シンポジウム I 安楽死問題における〈当事者〉とは誰か？ —医療および社会・文化的文脈をふまえて—	公募シンポジウム(5) (16:20-17:50) 再考「ヒト胚と人間の尊厳」(研究目的や着床前診断を含む)	公募ワークショップ(7) (16:20-17:50) 高・大学連携におけるバイオエシックス教育	
17:50-18:00				
18:00-19:00				理事会 (B 号館)

色枠のイベントは一般無料公開

2日目 (11月20日・日曜日)

		Zoom 1	Zoom 2
	A会場 ハイブリッド (関西学院大学)	オンライン (ライブ配信)	オンライン (ライブ配信)
9:30-11:00	若手発表奨励賞セッション	公募シンポジウム(6) 生命科学と感染症との接合 及びそのガバナンスに関する 検討	公募ワークショップ(8) 語り合おう! ——生命倫理教育における 実践上の工夫の共有
11:00-11:10	休憩	休憩	
11:10-11:55	若手論文奨励賞受賞者を囲んで	公募ワークショップ(1) (~12:40) 臨床倫理と文学	公募ワークショップ(9) (~12:40) 代理意思決定を再々考す る: 関係性の内にある弱き存在 をいかに支え得るか
11:55-12:50	昼食	昼 食	
12:50-14:00	総会		
14:10-15:40	国際シンポジウム Autonomy and Vulnerability in End-of-life Care (国際交流委員会)	公募ワークショップ(2) 白衣授与式：通過儀礼とプ ロフェッショナルリズムのゆ くえ	公募ワークショップ(10) 「集団の生命倫理 vs 個々人 の生命倫理」 ~<20世紀生命倫理学の地 平>を今世紀にどう生かす か?(その2)
15:40-15:50	休憩	休憩	
15:50-17:50	大会企画 シンポジウム II 強制不妊はどのような人権/ 生命倫理の問題か —「優生学」および「性別の 自己決定」における「身体 の完全性」・「尊厳」・「リ プロダクティブ・ライツ」保 護の観点から—	公募ワークショップ(3) (~17:20) 出自を知る権利—国内外の 動向から	公募ワークショップ(11) (~17:20) 病院・臨床倫理委員会と臨 床倫理コンサルテーション をめぐる論点
17:50-	閉会式		

色枠のイベントは一般無料公開

第34回日本生命倫理学会 プログラム

第1日目:11月19日(土)

A会場 ハイブリッド(関西学院大学)

9:20~10:20

開会式

大会長講演

ひとに聴き、ひとを見つめる生命倫理

講演： 土井健司(関西学院大学)

10:30~12:00

学会企画 シンポジウム

個人情報とひとの顔のはざままで データ・尊厳・公共性

オーガナイザー： 美馬達哉(立命館大学)

シンポジスト： 藤田 卓仙(慶応義塾大学)

中野 智世(成城大学)

13:00~14:30

公募シンポジウム(1)

ウクライナにおける臨床試験：戦時下の研究倫理をめぐる国際的議論

オーガナイザー： 栗原千絵子(神奈川歯科大学)

シンポジスト： 松山琴音(日本医科大学)

栗原千絵子(神奈川歯科大学)

齊尾武郎(フジ虎ノ門健康増進センター)

香川知晶(山梨大学)

14:40~15:40

大会企画講演

「いのち」へのまなざし—当事者の声に聴く—

講演： 藤井美和(関西学院大学)

15:50~17:50

大会企画 シンポジウムI

安楽死問題における〈当事者〉とは誰か？—医療および社会・文化的文脈をふまえて—

オーガナイザー： 安藤泰至(鳥取大学)

田坂さつき(立正大学)

シンポジスト： 安藤泰至（鳥取大学医学部）
 笹月桃子（西南女学院大学保健福祉学部・九州大学大学院医学研究院）
 児玉真美（一般社団法人日本ケアラー連盟）
 芦名定道（関西学院大学神学部）

Zoom 1 & 2 オンライン（ライブ配信）

10:30～12:00

●Zoom 1

公募シンポジウム(2)

生命倫理学における「説明」とは何か——意思決定能力、ナッジ、人工知能の議論による再考

オーガナイザー： 戸田聡一郎（東北大学大学院文学研究科）

シンポジスト：

- ・十分な意思決定能力を持たないと判断される人の意思決定プロセスにおける「説明」
日笠晴香（岡山大学大学院ヘルスシステム統合研究科）
- ・医療上の意思決定支援における倫理的ナッジの条件
吉良貴之（愛知大学大学院法学研究科）
- ・説明可能な AI（XAI）は臨床においていかなる責任の主体となりうるか
戸田聡一郎（東北大学大学院文学研究科）

■Zoom 2

公募ワークショップ(4)

医療資源配分と高齢者差別-年齢による区別はどの程度許容されるか？

オーガナイザー： 齋藤信也（岡山大学）

報告者： 児玉聡（京都大学）

白岩健（国立保健医療科学院）

13:00～14:30

●Zoom 1

公募シンポジウム(3)

パンデミック ELSI の諸相—日本と外国の政策比較を通じた検討

オーガナイザー： 児玉聡（京都大学大学院）

シンポジスト：

- ・日本の COVID-19 対応政策の検討-政策の厳格さ指数等を用いた各国比較を通して-
田中美穂（日本医師会総合政策研究機構／立命館大学大学院）
伊沢巨洋（京都大学大学院）
- ・台湾の COVID-19 対策による終末期医療への影響-事前指示書による治療中止の課題-
鍾宜錚（早稲田大学社会科学部）

- ・フランスと日本におけるパンデミック対応の批判的検討
三上航志(京都大学大学院)
小門穂(神戸薬科大学)
- 特定質問者： 井上悠輔(東京大学医科学研究所)

■Zoom 2

公募ワークショップ(5)

病院組織における倫理の問題—臨床倫理活動調査を通して—

- オーガナイザー： 服部俊子 (大阪公立大学大学院)
シンポジスト： 堀江 剛 (大阪大学大学院)
 樫本 直樹 (産業医科大学)
 服部俊子 (大阪公立大学大学院)

14:40~16:10

●Zoom 1

公募シンポジウム(4)

出生前検査がもたらす課題とその対応-NIPT以降

- オーガナイザー： 柘植あづみ (明治学院大学)
シンポジスト：
・なぜ出生前検査を希望するのか？—「出生前検査に関するアンケート」より—
田中慶子 (慶應義塾大学)
・女性における NIPT の経験—「出生前検査に関するアンケート」より
菅野摂子 (埼玉大学)
・アジアを中心にした他国の出生前検査の現状とその背景について
白井千晶 (静岡大学)
・出生前検査を差別的に運用しない法制度は可能か：現状の問題点
齋藤有紀子 (北里大学)
- パネルディスカッション：
指定討論者 玉井真理子 (信州大学)

■Zoom 2

公募ワークショップ(6)

コロナ禍の介護現場で生じた倫理的課題を振り返る

—「介護の倫理」の担う役割と今後の課題—

- オーガナイザー： 中村裕子 (日本ヒューマンヘルスケア研究所)
報告者： 荒川泰士 (高知県ホームヘルパー連絡協議会会長)
 北川香奈子 (南海福祉看護専門学校)
 河島久徳 (京都桂病院有料老人ホーム)
 中村裕子 (日本ヒューマンヘルスケア研究所)

16:20~17:50

●Zoom 1

公募シンポジウム(5)

再考「ヒト胚と人間の尊厳」(研究目的や着床前診断を含む)

オーガナイザー： 小出泰士(芝浦工業大学)

シンポジスト：

- ・再考「着床前遺伝学的検査は人間の尊厳と両立可能か」
盛永審一郎(小松大学大学院)
- ・ヒト胚研究に対する規制と「人間の尊厳」の原理—フランス憲法院の判例に基づく考察—
小林真紀(愛知大学)
- ・「原則禁止だが例外的に容認」は、倫理的に正しいか
小出泰士(芝浦工業大学)

■Zoom 2

公募ワークショップ(7)

高・大学連携におけるバイオエシックス教育

オーガナイザー： 丸山マサ美(九州大学大学院医学研究院)

報告者： 鈴木 美香/佐藤 恵子
(京都大学 iPS 細胞研究所/京都大学大学院医学研究科)

川勝 和哉(兵庫県立姫路東高等学校)

丸山マサ美(九州大学大学院医学研究院)

コメンテーター： 木村 利人(早稲田大学)

第2日目:11月20日(日)

A会場 ハイブリッド(関西学院大学)

9:30~12:00

若手発表奨励賞セッション

- ・HBOCとPGT-M、二つのパターンリズムと認識的不正義
飯塚理恵(関西大学)
- ・多因子遺伝性胚スクリーニング(Polygenic Embryo Screening)における倫理的懸念の分析
森田初音(京都大学大学院文学研究科)
- ・成年後見人等が抱える身上保護業務における困難感
小野年弘(千葉大学大学院看護学研究科)
- ・精神医療に関わる様々な立場の人の語りから考える精神保健福祉法のあり方
高嶋里枝(明治大学大学院法学研究科)

11:10~11:55

若手論文奨励賞受賞者を囲んで

- ・常染色体潜性遺伝(劣性遺伝)病における保因者検査の現状とELSI
鈴木将平(国立国際医療研究センター)

14:10~15:40

国際シンポジウム(国際交流委員会)

Autonomy and Vulnerability in End-of-life Care

- オーガナイザー: JAB International Collaboration Committee
- シンポジスト: Bryanna Moore (University of Texas Medical Branch)
Matthé Scholten (Ruhr University Bochum)
Yicheng Chung (Waseda University)
Hitoshi Arima (Yokohama City University)

15:50~17:50

大会企画 シンポジウムII

強制不妊はどのような人権/生命倫理の問題か

—「優生学」および「性別の自己決定」における「身体の完全性」・「尊厳」・「リプロダクティブ・ライツ」保護の観点から—

- オーガナイザー: 香川知晶(山梨大学)
建石真公子(法政大学)
- シンポジスト: 白井崇来人
松尾かずな(名古屋大学病院)

建石真公子（法政大学）

松原洋子（立命館大学大学院先端総合学術研究科）

Zoom 1 & 2 オンライン (ライブ配信)

9:30~11:00

●Zoom 1

公募シンポジウム(6)

生命科学と感染症との接合及びそのガバナンスに関する検討

オーガナイザー： 四ノ宮成祥 (防衛医科大学校)
三成寿作 (京都大学 iPS 細胞研究所上廣倫理研究部門)

シンポジスト：

- ・ 感染症研究におけるデュアルユース性に関する教材の必要性
花木賢一 (国立感染症研究所安全実験管理部)
- ・ 感染症研究のデュアルユース課題：メディアの視点から
青野由利 (科学ジャーナリスト/毎日新聞客員編集委員)
- ・ Covid-19 のパンデミックと二つの倫理
児玉聡 (京都大学大学院文学研究科)
- ・ 健康危機対応における病原体とそのゲノム情報にかかわる倫理的考慮事項をめぐる
ガバナンスの必要性
松尾真紀子 (東京大学大学院公共政策学連携研究部)

パネルディスカッション：

指定発言：河原直人 (九州大学病院 ARO 次世代医療センター)

■Zoom 2

公募ワークショップ(8)

語り合おう！——生命倫理教育における実践上の工夫の共有

オーガナイザー： 宇田川誠 (東京大学)
坪井龍太 (大正大学)

報告者： 横田恵理子 (慶應義塾大学)
貞岡美伸 (京都光華女子大学)
中田亜希子 (東邦大学)
宇田川誠 (東京大学)

11:10~12:40

●Zoom 1

公募ワークショップ(1)

臨床倫理と文学

オーガナイザー： 徳永純 (狭山神経内科病院・群馬大学)

報告者： 服部健司 (群馬大学)
徳永純 (狭山神経内科病院・群馬大学)

■Zoom 2

公募ワークショップ(9)

代理意思決定を再々考する：関係性の内にある弱き存在をいかに支え得るか

オーガナイザー： 笹月桃子（西南女学院大学・九州大学大学院医学研究院）
報告者： 鉄原健一（福岡市立こども病院 集中治療科）
植竹日奈（ケ・セラ社会福祉士事務所）
笹月桃子（西南女学院大学・九州大学大学院医学研究院）

14:10~15:40

●Zoom 1

公募ワークショップ(2)

白衣授与式：通過儀礼とプロフェッショナリズムのゆくえ

オーガナイザー： 齊尾武郎（フジ虎ノ門整形外科病院内科・精神科）
加部一彦（埼玉医科大学総合医療センター小児科）
報告者： 加部一彦（埼玉医科大学総合医療センター小児科）
栗原千絵子（神奈川歯科大学）
宮岡等（医薬品医療機器総合機構）
研修医・医師・看護学生・看護師（調整中）

■Zoom 2

公募ワークショップ(10)

「集団の生命倫理 vs 個々人の生命倫理」

～<20世紀生命倫理学の地平>を今世紀にどう生かすか？(その2)

オーガナイザー： 村岡潔（岡山商科大学法学部）
報告者： 大林雅之（東洋英和女学院大学）
福島智子（松本大学大学院健康科学研究科）
村岡 潔（岡山商科大学法学部）

15:50~17:20

●Zoom 1

公募ワークショップ(3)

出自を知る権利—国内外の動向から

オーガナイザー： 小門 穂（神戸薬科大学）
報告者： 仙波由加里（お茶の水女子大学）
西本 和見（中京大学）
洪賢秀（明治学院大学）

柘植あづみ（明治学院大学）

■Zoom 2

公募ワークショップ(11)

病院・臨床倫理委員会と臨床倫理コンサルテーションをめぐる論点

オーガナイザー： 竹下啓（東海大学医学部附属病院）
報告者： 竹下啓（東海大学医学部附属病院）
瀧本禎之（東京大学医学部附属病院）
長尾式子（北里大学病院）
金田浩由紀（関西医科大学総合医療センター）
三浦靖彦（東京慈恵会医科大学附属柏病院）

一般演題（オンデマンド配信）

A. 生命倫理の基本概念

A01. 医療の場面における2つの「信頼」について

石田安実（神奈川大学）

A02. 在宅医療・ケアに関わる専門職は「尊厳」をどのように理解しているのか

堂園俊彦（静岡大学学術院人文社会科学領域）

天野ゆかり（静岡県立大学経営情報学部）

本家淳子（浜松医科大学医学部）

青田安史（常葉大学健康科学部）

B. 研究倫理、産学連携

B01. 大規模住民健康調査における倫理課題—「岩木健康増進プロジェクト」の倫理支援を通して—

有澤和代（東京大学医科学研究所先端医療研究センター生命倫理研究分野）

神里彩子（東京大学医科学研究所先端医療研究センター生命倫理研究分野／研究倫理支援室）

B02. プラットフォーム型研究におけるダイナミック・コンセントの有用性

有澤和代（東京大学医科学研究所先端医療研究センター生命倫理研究分野）

神里彩子（東京大学医科学研究所先端医療研究センター生命倫理研究分野／研究倫理支援室）

B03. 個人情報保護法改正と同意のない観察研究

吉峯耕平（田辺総合法律事務所）

B04. 臨床研究担当者会議における研究倫理教育について

脇之藺真理（藤田医科大学研究推進本部/国立長寿医療研究センター）

平松裕之（藤田医科大学研究推進本部）

山本勇樹（藤田医科大学事務局）

上杉啓子（藤田医科大学研究推進本部）

近藤征史（藤田医科大学研究推進本部）

飯島祥彦（藤田医科大学医学部）

B05. ヒト胚の培養可能期間をめぐる専門家・一般市民に対する意識調査

由井秀樹（山梨大学）

武藤香織（東京大学）

八代嘉美（東京都健康長寿医療センター）

渡部沙織（東京大学）

木矢幸孝（東京大学）

藤澤空美子（東京大学）

山縣然太郎（山梨大学）

C.先端医療技術、医療化

C02. AI医療における生命倫理

位田隆一（一般社団法人国立大学協会）

C03. 非医学的対処可能性に基づく偶発的所見返却の検討

大橋範子（大阪大学データビリティフロンティア機構）

C04. ヒト脳オルガノイド研究に対する市民の態度：実証的研究の現状と展望

片岡雅知（広島大学大学院人間社会科学研究科）

澤井努（広島大学大学院人間社会科学研究科）

D.医療経済、資源配分、公共政策

D01. 整調な月経周期の存在は、有経期女性の健康にとって必要条件なのだろうか？

～受刑女性の続発性無月経に対する内分泌療法の可否をめぐって～

中井祐一郎（小池病院産婦人科）

比名朋子（神戸市看護大学）

E.臨床倫理、看護倫理

E01. 慢性腎臓病患者と医師は腎代替療法選択に向けた話し合いで何を大切にしているか

—患者と医師の価値観とそのズレを探る—

宇野澤千尋（聖路加国際大学大学院）

鶴若麻理（聖路加国際大学）

E02. アドバンス・ケア・プランニングにおけるエフェクチュエーションの適用可能性

角田ますみ（杏林大学保健学部）

吉田満梨（神戸大学大学院経営学研究科・経営学部）

E03. 地域における臨床倫理コンサルテーションに関する実態調査

—都道府県医師会および看護協会を対象とした実態調査—

三浦靖彦（東京慈恵会医科大学附属柏病院総合診療部）

堂園俊彦（静岡大学学術院人文社会科学領域）

長尾式子（北里大学看護学部）

神谷恵子（神谷法律事務所）

竹下啓（東海大学医学部基盤診療学系医療倫理学領域）

E04. 難しい医学研究用語をわかりやすく—CReP・一般の立場委員による解説文案作成の試み

神里彩子（東京大学医科学研究所 先端医療研究センター生命倫理研究分野）

洪賢秀（東京大学医科学研究所 先端医療研究センター生命倫理研究分野）

有澤和代（東京大学医科学研究所 先端医療研究センター生命倫理研究分野）

E05. 輸血拒否と治療拒否, 診療拒否

伊藤暢章（バルサム法律事務所）

前田義郎（産業医科大学医学部哲学概論）

E06. 関係的自律の理論に基づいた人生の最終段階における自律の尊重に関する考察

園山純代（島根県立大学）

E07. 臨床倫理とは何か

服部健司（群馬大学大学院医学系研究科医学哲学・倫理学）

E08. 病院の看護倫理研修担当責任者が捉える倫理研修の課題

中尾久子（第一薬科大学）

金岡麻希（宮崎大学医学部看護学科）

潮みゆき（福岡女学院看護大学）

木下由美子（宮崎大学医学部看護学科）

E09. 医師のダブルエージェント（double agent）性について

齋藤信也（岡山大学大学院保健学研究科）

E10. 臨床倫理の専門部署に専従の臨床倫理コンサルタント（医師）が配置されたことによる変化と今後の課題

新井奈々（東京大学医学部附属病院）

瀧本禎之（東京大学医学部附属病院、東京大学大学院医学系研究科医療倫理学）

F. 生殖医療、産育、家族

F01. 非匿名の配偶子提供者を再考する

石井 哲也（北海道大学安全衛生本部）

F02. 不妊治療の経験からみた日本社会の諸課題～卵子提供の経験についての Web アンケート調査から

洪賢秀（明治学院大学・東京大学医科学研究所）

小門穂（神戸薬科大学）

柘植あづみ（明治学院大学）

F03. 小児・思春期がん患者の妊孕性温存についての情報提供に関する現状と課題

土屋裕子（立教大学）

櫻井浩子（東京薬科大学）

G. ケア、介護、福祉

G01. ジョイス『ダブリナース』における友愛とケア

徳永純（狭山神経内科病院）

**G02. 医療的ケア児の参加及び地域共生にかかわるインクルーシブ教育支援と課題
：公立小・中学校における「教科担任制」に関する検討を中心に**

山本智子（国立音楽大学）

H. 終末期医療

H01. 当事者のACP（人生会議）

沖永隆子（帝京大学共通教育センター）

濱田哲郎（ジャーナリスト・元NHK社会部記者）

H02. 終末期医療のコミュニケーションに関する研究

—マイクロカウンセリング技法に焦点をあてた看護の一考察—

古賀悦子（九州大学医学部保健学科看護学専攻修士課程）

丸山マサ美（九州大学大学院医学研究院保健学部門看護学分野）

K. 医療安全、医薬品評価

K01. 臨床研究における性別／ジェンダーの考慮に関する欧米の対応

—covid-19 ワクチンの事例を契機に

遠矢 和希（国立がん研究センターがん対策研究所）

L. 生命倫理教育

L01. 高大接続授業から生命倫理教育と多職種連携を考える

岡野康幸（群馬医療福祉大学社会福祉学部）

半田正（群馬医療福祉大学医療技術学部）

L02. 宇宙航空研究開発機構における人対象医学研究倫理教育プログラムの開発・検討

松崎友美、秋元茉莉、松本暁子（宇宙航空研究開発機構有人宇宙技術部門）

L03. 生命倫理の人間学的基底—「個人の統合性」原則とその教育方法について

宮島光志（富山大学学術研究部薬学・和漢系）

M. その他

M01. 継続的な患者参画による患者－研究者の関係性醸成の意義

—RUDY JAPAN の5年間にわたる実践から

加藤和人（大阪大学大学院医学系研究科）

古結敦士（大阪大学大学院医学系研究科）

磯野萌子（大阪大学大学院医学系研究科）

相京辰樹（大阪大学大学院医学系研究科）

山本ベバリー・アン（大阪大学大学院人間科学研究科）

M02. なぜ消費者に事故アルゴリズムの選択肢を与えるべきか

—自動運転車におけるトレードオフ事故の倫理—

高口和也（京都大学大学院文学研究科）

M03. 医療情報のネットワーク化・共有とビッグデータ分析や AI 学習といった利活用に伴う倫理的配慮の模索過程：二自治体の事例から

佐々木香織（札幌医科大学）

M04. 医学教育における「非定型的」な知の位置づけ

森禎徳（群馬大学大学院）